

NPO Kyoken 通信 118号

発行日 平成 27 年 4 月 27 日 / 発行者 特定非営利活動法人 教育研究所

本部（横浜事務所）

〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

TEL : 045-848-3761 / FAX : 045-848-3742

E-mail : contact@kyoken.org URL : <http://kyoken.org/>

宇奈月自立塾

〒938-0282 黒部市宇奈月温泉 5509-16

TEL : 0765-62-9681 / FAX : 0765-62-1120

にいかわ若者サポートステーション

〒938-0037 黒部市新牧野 103 ファーストビル 3F

TEL : 0765-57-2446 / FAX : 0765-57-2447

E-mail : contact@nsapo.org URL : <http://nsapo.org/>

新年度スタートです

桜が咲き、町にはリクルート姿のフレッシュマンが溢れている。皆、桜咲く下、晴れやかな顔をしている。若い人の笑顔は素敵だ。

宇奈月自立塾からもフレッシュマンになって、晴れやかに社会人になる人、社会に再復帰する人、町のフレッシュマンと同じように晴れやかな顔をしている。

働くことは生きることであるとともに、自分の存在の証明であり、生きた証にもなる。だが、現実には新規採用の若者も大卒で3割、高卒で4割の人が3年以内で会社を辞めている。

バブル崩壊、リーマンショック、長引くデフレの中、大企業はグローバル経済を勝ち抜くと称し、非正規社員を増やし、人件費の大幅カットされた雇用者が4割近くに達し、年収300万円の生活を余儀なくされる。大企業はその資金を内部留保に廻し過去最高。

格差社会は日本社会を危うくさせる。下層階級は、将来、収入が増える見込みがないばかりか、年齢が上がれば上がるほどリストラの対象になる。例え、正社員で入社しても、他の会社に出向されるケースも多い、扱いは非正規社員と同じである。

そのような若者は自分の将来が描けず、単純作業の繰り返し、残業手当が付くか分からない仕事を要求するブラック企業で働く。

そのような中で3月20日ようやく、閣議決定し、国会に4党合意のもとに、提案される「青少年雇用促進法」が動き出す。

詳しくは牟田武生ブログ (http://muta_takeo.kyoken.org/article/416344309.html) をご覧ください。

この法案成立で、若者の雇用問題は全て解決するとは思わないが、少々は解決すると思われる。

いずれにしても、「働く=生きるは人間の根本原理であり、生きる=楽しく人生を謳歌する」ことであり、人間としての権利であると思っている。

しかし、現実的では、将来に希望が持てない若者が他の先進国では1割前後であるのに比較して日本では4割も存在している。絶望し、自殺をする者も多い、また、ひきこもりの長期化によって、精神疾患を発病する若者も多い。

子どもや若者に夢のある社会を提供する義務が、全ての企業や大人にはあるのではないかな？

「現代型うつと診断されたら！」

著：NPO 法人教育研究所 理事長・教育コンサルタント 牟田武生

はじめに

あなたも、もしかして！

ああ、今日も仕事か？何となく憂鬱だなあ～、

就活の時、多くの会社の面接に行き、やっと、この会社に就職の内定が決定した時、うれしさ余り涙ぐんでしまうぐらいうれしかった。これでやっと自分の人生にも未来が開けたと思えたのに、半年、1年経つと段々と新鮮味がなくなって、なんでこんな仕事やっているのだろうか？大げさに言えば、人生こんなことで終わりたいと思う。

こんな仕事、自分が本当にやりたいと思っていないことを毎日なんでやっているのだろうか…。

さらに会社内での人間関係も最悪…。

皆、本音で話す奴もいなければ、心底自分の気持ちをいう奴もいない。

同僚は、上司の顔伺いのヒラメばかり、与えられた仕事をこなすのは当然のこと、具体的な成果も上げなければならない。さらには年2回の自己評価シートの提出、上司の評価、管理職による評価もある。

おのずと、他人（同僚や上司）は自分をどのように見ているかを必要以上に気になってしまう。そして、仕事や人間関係のことなど、本音を口にすることも出来ず、吐き出すところもなく、心のモヤモヤ状態が続く、そのうちに、疑心暗鬼の世界が次第に拡がって行き仕事に対するモチベーションが上がらない。

たとえ、上がったとしても長く続かず、なんでこんな仕事やっているのだろうと、さらに深く思う。そして、残業の上限を超えてサービス残業になると、この会社ブラックじゃないかとさえ思えてくる。

学生時代の友人に話すと、仕事なんてみんな同じようなもの、喰うために、生きるためにやっているのだから仕方がない。でも、集中して取組んでいると、そのうち、慣れて来てどうってことなくなるよ。

「お前は、仕事に対する根性や気合いが足りないのではないか」といわれるが、どうしてこんな仕事をしなければならないのか、自分ではしっかり腑に落ちないというか、自分自身納得できない。

残業代含めて月25万円。

一人暮らしで家賃など払うと何にも残らない、アルバイトだってそのぐらいのお金は稼げるし、責任を負わなくて良いから気楽だ！時間もなければ、金も残らない生活は嫌になる。

金は残らなくても良いが、自由に使える時間がたっぷりある方が幸せな人生だと思える。それに、学生時代、就活やっても上手く行かず、母親に卒業し、家で暮らすとしたら、どの位、家にお金を入れたら良いかと相談したら、食費と水道高熱費等で5万円と言っていた。

それくらいなら、簡単なバイトを8日位やれば払える、小遣いを入れても、10日でも働けば十分、あと20日は自分の好きなことをして暮らせる。

その方が自分の人生にあっていて、最近では思えてくる。

それでも、頑張って仕事を続けていると、月曜日の朝が起れず、ブルーマンデーの世界…。会社によ

うやく出勤しても、仕事に身が入らず、ボットするやらイライラしたり、注意力も散漫になり、上司に「土日遊び過ぎでは…」と注意をされる。

それでも、気が入らないでいると、「土日はウイークデイに働くために休まないといけない。仕事と遊びとどちらが大切なのか？」と説教されると、つい最近は無かつと来るようになってしまった。

気分の変化が大きく安定しない。そして、時には自分を責め落ち込み、生きていても仕方がないので、はとも、思えるし、つまらない仕事を押し付け、こんな状態に自分をした会社や上司に対する憎しみが自然と湧いてくる。

そして、木曜日位になると、「早く、土日にならないか」と、ばかり思う。といっても、土日どこかに行くわけでも、友人と飲んで騒ぐこともしない。ひとりでDVDやユーチューブを見たり、チャットを楽しんだり、ネットゲームをしたり、音楽を聴くだけの生活だが、自由な自分だけの時間の流れに身を任せた理想的な生活と思える。

仕事をしている時とは天と地にいるくらいの隔りがある。

特に仕事で上手くいかず、上司に嫌みの1つでも言われると、自分自身を誰かに認めて貰いたい気持ちがあるのか、そんな時は、SNSで虚勢を張り、皆に注目されたい自分がいる。

そこで、さらに自分が投稿したものが、レスポンスが大きいと、つい時間の経過がわからないくらいにのめりこんでしまう。どこかに他人に認めてもらいたい自分がいる。また、学生時代、仲間とも食事を楽しむことをしていたが、社会人になってからは、お腹が減ったから食べると感じになって食欲も減退して来ている。また、寝てもすぐ目を覚める状態が続いている。

こんな悩みを抱えて日常生活を送っている人が最近若い人に多くなっています。そんな人はもう立派な「現代型うつ病」です。

実は、この病気は、本人とっても、実は扱いにくい病気であり、なぜ、そうなるのか、原因もしつけ、学校教育も含め社会のあり方、同僚・上司にとっては、どう対応したら良いのかについて、臨床からみた、現代型うつについて、その対処方法を考えてみたいと思います。

これは、同名の電子書籍の書き出し文です。

アマゾン等で販売されています。

<http://www.amazon.co.jp/dp/BOOLSKLNGQ/>

是非、この機会に、まだ、読まれていない方はお読みください。今の世の中少しわかります。同時にひきこもっている若者の気持ちも理解できます。

訃報

若者自立塾、全国引きこもりKHJ親の会の沖縄支部長、おきなわサポートステーション運営と10年近く、一緒に活動をした上江田静江さん(63)が18歳の少年に殺傷される事件が起きました。不登校、ニート、ひきこもり当事者への支援を30年に渡って誠心誠意尽くし、沖縄の母でした。告別式には2000人の方々が参加し、ご冥福を祈りました。どうぞ、心安らかにやすみください。心からご冥福を祈ります。

私は、三年前より全国 50 の支部があり、厚生労働省が唯一認める団体である、全国引きこもり KHJ 親の会（家族連合会）会長池田佳世理事長に頼まれ仕事をお手伝いしている。

これは長期化高齢化しているひきこもりの問題は、さらに深刻化しているからであり、生活困窮者支援法の中では、重要なキーパーソンになるからである。また、20 年 30 年ひきこもると、社会的な自立のためには様々な支援が必要であり、その中で中間就労というシステムは、絶対的に必要なアイテムであり、当事者と家族を支援するためには、家族会の必要性が極めて重要になっていく。

その報告書のまとめを書いたので、教研通信でも掲載することにした。また、これを機会に家族会を教研でも立ち上げたいと思っている。

～今後の家族会全体の取組みについて～

KHJ 親の会（家族連合会）本部幹事 牟田武生

今回の学習会アンケートから読み取れるもの

今回のアンケート調査は、ひきこもりの社会的理解・支援促進を目的とし、当事者、家族、支援者、行政等、それぞれの立場が抱えている課題や問題点を検証するためのものである。

ひきこもり当事者と家族が、平成 27 年度から始まる生活困窮者自立支援法の対象者となる関係上、実施主体者としての福祉事務所設置市町村等の担当者・支援者が、今後どのような支援を行って行けばいいのか手探りの状態の中、実施された。

全国各地で行なわれた、学習会は（独）福祉医療機構 社会福祉振興助成事業として、全国 KHJ 親の会を主催団体として実施され、元ひきこもり当事者や家族の声を直接聞くことが出来たことは、非常にタイムリーな企画であり、開催された学習会は参加者人数が予定を大幅に超え、さらに、大多数ともいえる 92%（満足 55%・やや満足 37%）につながった。

この調査、次の三点が明確になってきた。

- ・ひきこもり当事者と家族の高年齢化
- ・当事者・家族の孤立と生活困窮の兆しが明確に！（自由記述）
- ・家族及び支援者の対応ノウハウと情報不足がひきこもりを長期化させる原因に！（自由記述）

これまで、ひきこもり調査は年齢の上限を厚生労働省 34 歳、内閣府 39 歳とされ、昨年度行われた厚生労働省援護局助成事業（注）を受け、全国 KHJ 親の会が行った調査では年齢制限をもうけず行った結果、ひきこもり当事者と保護者の高年齢化がはじめて解明され、今回の調査は、それを裏づける結果になった。

当事者が 40 代に突入するとおのずと保護者の年齢は上がり、多くの親たちは現役を退き年金生活に移行する。年金は本人と配偶者のために支給されるので、扶養家族を養うことが困難になり、生活困窮状態に陥る可能性を含んでいる。

年金生活者は、同時に社会との接点が少なくなる。さらに、世間のひきこもり当事者に対する意識が、怠けや変わった人等とみるイメージがあり、また、保護者に対しても、子育てに失敗した、親に成れな

い親という見方をされる場合も多く、それらの視線から逃れるように、親自身もひきこもりの生活に陥らざるを得ず、当事者と家族の孤立が進む心情が多く、自由記述から読み取ることができた。

これらは、さらなる深刻化現象を意味している。なぜならば、ひきこもりという社会問題は、解決策を今まで充分に見いだせず、年々、不登校とともに、少子化社会にもかかわらず増加傾向を示しているからである。(注)平成25年度厚生労働省社会福祉推進事業より

「生活困窮者自立支援法」を受けて

これからの社会は、誰でもが社会的に排除されない社会の実現するために、定着しなければならない概念としてインクルージョン（社会的包摂）がある。これは、国民全体の幸福につながり、貧困や犯罪予防にもなる。同時に、福祉的支援から個としての自立につながれば、やがては国家予算削減になる。

ひきこもりの当事者は、多くの場合、家族からも孤立し、家族は地域社会から孤立していることが多い。日本では育児から始まり、就職や自ら自立するまでは、親の責任として考える因習がある。そのため、親が子育てを主に担ってきた。この考え方を欧米並みに、子どもや若者は社会の大切な一員であり、親と共に社会全体で担っていくという時代に変えなければならない。

親が子の自立をすべて担わなければならないと思うと、責任が重く押し掛かる。たとえ、学校でいじめを受けて、先生や級友が信じられなくなり、不登校になっても、未だに、学校や社会から放置され、変わった子、打たれ弱い子とレッテルを貼られることもある。それらの心理が、ひきこもり当事者や親にも共通する圧迫の心理であり、ひきこもりの遠因にもなる。

ひきこもり当事者や家族の経済的貧困と社会的孤立に追いやってはならない。インクルージョンを実現するためには、親ひとりでは、無力であり、同じような悩みを抱える親同士が、相互扶助精神で助け合う家族会が核となり、地域や行政に働きかける時が来ている。その後ろ盾になる法律が「生活困窮者自立支援法」である。

今後の家族会全体の取組

今後の家族会の役割は孤立防止である。孤立や孤独は、家族においても、社会においても、ひきこもり問題に対して最大のネックになり、解決を遠ざける最も大きな課題である。

まず、家族だけでは、長期化したひきこもりに対して絶対に解決出来ないという認識に立ち、ひきこもり当事者や家族の経験談等の学習会を中心にした相互支援できる家族会を全国に広げ、情報交換及び支援ネットワークの強化、学識経験者や研究者のアドバイスや先進的事例の提示をさらに充実させる必要がある。

さらに、援護局と進めているピアサポート研修と訪問事業、さらには、その延長線上にある居場所事業やフィチャーズ・セッションによる新たな生き方の発見や家族会が運営する事業体による中間就労へ結びつけて行きたい。

無論、家族会にできることとできないことがあるので、できないことは援護局を含めて、行政支援を受け、様々な支援機関と協働事業として、ネットワーク作りとそのシステムの中核団体として家族会が活動することが大切という認識の必要性がある。

そして、この支援は、当事者と家族を中心に据え、個（当事者と家族）と全体（同じ悩みを持つ、多くの家族）のために、寄与していくことが、家族会による社会貢献であると認識している。

今後の事業の展望について

社会資源との関係（ネットワーク）強化

助成事業を通じて、既存の社会資源との関係をより一層強化する。併せて、新たな社会資源との関係づくりを形成し、ひきこもり問題へのネットワークの形成・強化につなげていく。本助成事業が、ネットワークの形成・強化の課題と必要性を明らかにするものと思われる。

生活困窮者自立支援法施行に伴い、自治体、社協、支援機関との連携強化の展望

社協職員、民生委員や保健師等からの関心、要望が高く、今後も、ひきこもり支援に携わる福祉専門職や支援関係機関にも積極的に学習会に参加していただくことで、効果的な支援の強化やネットワークづくりへと事業を展開していきたい。

NPO 法人教育研究所 親の会発足主旨文（案）

当事者と家族会立ち上げ有志代表

現代社会では、不就労・引きこもりが、本人だけでなくその家族も巻き込む長期的な問題になっています。年老いた親がやがて他界するところを考えると、不就労の果て取り残されてしまう本人だけでなく、社会にとっても、深刻な問題へと発展してしまいます。

そこで、この親の会では、不就労・引きこもりの若者を持つ親に、集まりの場を提供し、情報交換と定期的な勉強会を開くことを目的とし発足します。また、本人に対しては、当会において有意義な時間を過ごせるような企画を考案し、就労につながるよう寄与することも目的とします。

神奈川県にはKHJ親の会の支部が1つありますが、横浜にもう一つ立ち上げたいと思います。本会は、小規模であるという特長を生かし、会員個々の事情に対応できるよう努めます。皆様のご理解と幅広いご支援をお願いいたします。

当事者と家族会立ち上げ有志代表

今後の進捗状況やご案内などは、教研のホームページに随時アップしていきます。



厚生労働省、今年度予算

「集中訓練（合宿訓練）の内容と募集」について

若者自立塾から10年・・・と書こうと思って前号から予告をしていたのですが、今回は年度が変わった最初の教研通信ということもあり、今年度合宿訓練の内容を書こうと思います。

まず、非常にわかりにくいのですが、集中訓練＝合宿訓練です。

今までの流れと正式名称で言いますと、

「若者自立塾」

→事業仕訳で廃止

→基金訓練合宿型若者自立プログラム科

→基金訓練が求職者支援制度になり終了

→孤立無援の単独事業

→地域若者サポートステーション内部事業「若年無業者集中訓練プログラム」

で行っている状況です。

全国30箇所あった「若者自立塾」ですが、今現在も合宿訓練を随時行っている所は10箇所を切っています。

現在のところ今年度の訓練予定は、3カ月コース（年4回）と1カ月コース（短期型）です。

● 3カ月コース（年4回）各回定員5名

6月4日～8月28日

7月6日～9月30日

10月5日～12月28日

1月5日～4月30日

● 1カ月コース（短期型）各回定員6名

12月3日～12月28日

その他単独事業で、夏の短期体験（8月実施予定）や個人での短期体験（随時）を行っております。

勿論、これら訓練に随時参加することも可能です。例えば、5月から宇奈月自立塾に入塾し（私費負担）、6月3日からの訓練に参加することが出来ます。

この「若年無業者集中訓練プログラム」（以下「集中訓練」という）に参加する条件ですが、基本的に厚生労働省の労働及び雇用部局から資金が拠出している。そのために、「集中訓練終了後6カ月以内に就職を目指す」これが大前提になります。

訓練後の就職先も週20時間以上の勤務で雇用保険加入の仕事が条件になりました。労働色がはっきりと強く今年度から打ち出されています。

幸い、富山県黒部市は北陸新幹線効果もあり、今雇用が非常に多い状態にあり、色々と自分の人生をIターン含めやり直すチャンスは沢山あります！

一步踏み出すきっかけになってくれればと考えており、皆さまの参加をお待ちしております。

追伸

どうしても一人部屋が良い！

と言う方もいます、が、様子を見て生活に慣れてきたら、2、3人部屋になります。逆に2、3人部屋で苦も無く生活が出来るようになると、気が付いた時に物凄く成長しています。人間関係が面倒くさい、苦しい。と言った感情も特になくなって来ます。

環境を変え、自分を変え、人生を自分色に変える。

そういったチャンスがあるのが集中訓練です。

一步踏み出す。勇気を持ってください。そうすれば、人生が変わります。

踏み出せない方、親の方は相談から始めてください。

ボランティアのお誘い！

皆で参加しよう！東日本復興支援活動、大震災も4年を経過し、風化が市民のなかには定着しはじめています。しかし、現実的には、多くの被災した方の多くが、仮設住宅での不便な生活を続けています。生活、産業の復興、福祉・医療などを含めた社会インフラの整備等、様々な課題が山積していて、危疑として進んでいないのが、現地を視察し感じます。

NPO 教育研究所の会員で、高名な僧侶である臨済宗建長寺派福聚寺 住職 森山一城様よりお誘いがありました。若者の社会復帰のお手伝いを兼ねての企画です。

年に何回か、行事があります。是非、参加してみませんか！

今回は来月の浅草での「東北げんき市場」のご案内です。

浅草東北げんき市場の日程と時間をお知らせ致します。

5月9.10日 時間は9:30から17時まで 10日は片つけがあるため16:30までです。

場所は 浅草六区ブロードウェイ通りです。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

一般社団法人海の里創造基金のホームページも併せてご参照下さい。

HP <http://www.mvc.or.jp/>



宇奈月のひとコマ（塾生紹介）

NPO 法人教育研究所 宇奈月自立塾寮長・にいかわ若者サポートステーション統括 牟田光生

現在、4月21日宇奈月温泉は桜満開で、ようやく春の訪れを感じます。恒例の「ニート甲子園（宇奈月大ソフトボール大会）」（4月23日開催）も7年目を迎え月日を感じさせてくれます。今年も8団体の合計100名以上参加し、毎年100名を超えるマンモスイベントになり無事23日大会を終えました。

宇奈月自立塾の塾生達も練習に準備に忙しく、しかし楽しそうに動いております。現在宇奈月自立塾には15名在籍し、年齢は16歳～51歳までおり、高校に通学している者が1名、フルタイムで働いている者が10名、訓練生が4名と言う構成になっております。塾に住みながら働く…今回はそんな一人を紹介したいと思います。

長く宇奈月自立塾に住みながら働いている者も沢山居ります。理由はそれぞれですが、共通していえるのは1人暮らしより、皆が居る方が精神的に孤立しない。そういった点があげられると思います。

その中のひとり51歳男性Sさんは元生活保護者でアルコール依存です、入塾する前は入退院を3回繰り返し、内臓疾患・下血までしていた状態で、食事制限もあり、亡くなってもおかしくない状態で入塾しました。塾での生活により、生活リズムを取り戻し、体力をもう一度付け（年齢相応に元に戻し）ビジネスマナー研修により、自身のキャリアの振り返りや問題点・改善点を考え直し、もう一度社会参加する気持ちを取り戻し、今働いている現場で2カ月程の就労体験を行い、すぐ即戦力になれるような状態にしてから社会復帰しました。

アルコール依存も共同生活での周りの目や周囲の塾生の受け入れにより、今は一切飲まずに元気に生活しております。おかげで体調はどんどん回復し、食事制限も無くなりました。

Sさんの社会復帰するんだ！という意思と努力、宇奈月自立塾で本人の居場所の確立があり、立派に働いて納税者として頑張っております。

本人達の居場所や所属感、そういった目に見えない財産が構築できるのが共同生活の良さであります。また、宇奈月を出た時も、「宇奈月であれほど頑張れたのだから！」と言う大きな精神的支柱にもなってきます。

それら精神的支柱が自信であり、本人の強さに繋がって来ます。

決してお金で買う事の出来ない精神的な財産です。

今は貯金もあり、新しく入った後輩の面倒を見ながら、自立塾の温泉で塾生に人生を語っております。そんな生き方も有りだな…と思う宇奈月でのひとコマです。

Sさんだけでなく、そんな素敵な年老いた若者と本当の若者が生き生きと働き、自分の人生の進路を再び歩き始めました。これも、多くの寄付をして頂いた支援者の賜物だと思っています。

2015年春、新しい気持ちで頑張っていきたいと思っています。

第2回 青少年育成セミナー

日 時：平成 27 年 2 月 27 日 10:00~16:00
場 所：いわて情報交流センター（アイーナ）
5F 501A 会議室
参加人数：29 名

今年度二回目の青少年育成セミナーは、情報メディア対応研修会と併催で開催しました。午前中は、県民会議と国立岩手山青少年交流の家からの事業の説明があり、その後参加団体の皆さんから来年度の事業の情報提供をしていただき、相互の連携について協議を行いました。午後は、特定非営利活動法人教育研究所理事長の牟田武生氏による講演を拝聴し、参加者全員がとても良い講演だったと高評価をする内容でした。

その後、県民会議から情報メディア対応指導プログラムについての説明を行いました。

特定非営利活動法人
教育研究所 理事長
牟田 武生 氏

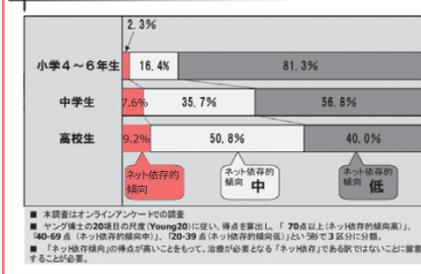


講演「ネットを居場所としている子ども達」～その背景と解決のヒント～（要約）

携帯電話やパソコン等のネットの依存は、高校生の割合が非常に高くなっている。特に「病的な使用」とされた割合は、女子高生が 9.9%、男子高生が 6.6%と女子の方が多い。

ネットを長時間使うようになって、現実社会が疎かになり、仮想社会がどんどん強くなってしまふ。うつむいて、耳に栓をして、歩いたり、

青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査 総務省情報通信政策研究所



電車に乗っているのは日本だけの現象。自分の世界に入ってしまった、人と交わることを拒否している。本当は人と交わりたいけれど、傷つきたくないから距離を持って匿名の社会で生きていく。

コミュニケーション依存でメールのやり取りによって依存していく女子に対して、男子はオンラインゲームを中心としたゲーム依存である。夜遅くまではまり込んで、学校には行くが寝てしまふ。家に帰ったらまたオンラインゲームをやる。生活リズムが完全に崩れて、学校に行けなくなる。不登校から学校を辞めて、そのままひきこもってゲームをやっている。その後 20 代になり、職場でうつ状態になって仕事を休んでいるのにプライベートでは元気に遊び回る「新型うつ」となることもある。そして、そのような「新型うつ」は、現実のリアルな遊べる所がある都会より、田舎の方が多い。

また、日本は子どもを商品にする社会だと思う。他の国だと青少年の問題は、未来の国を背負う問題だから、非常に重要な項目である。日本は、10 代の女性アイドルが、へそを出したり、お色気で売り出してテレビに出ている。他の国では考えられない。韓国では、政府が未成年者のゲームに関して時間制限という制度をつくり対策を取っている。

日本では、ゲーム依存から本格的な不登校、ひきこもりになっている事例が、最近増えてきている。不登校の内容が、以前は不安や緊張のために対人関係がうまくいかない「情緒混乱型」の人が多かったが、今は「無気力型」が多い。これには、ネットの影響があると思われる。人間は、ひとりでいたい時と誰かと一緒にいたい時の二つの欲求がある。しかし、ひとりでもネットで繋がっているが孤独がない。リアルな世界では孤独に見えるけれど、孤独ではない人たちがいる。特にオンラインゲームは、どんどん新しい物が提供されるから、エンドレスゲームであり、依存性が非常に高い。一度はまると抜け出

るのに数年かかる上、興奮し暴力行為がしばしば起こる。また、オンラインゲームの特性として、課金システムやアイテム販売があり、家族の現金やカードを無断で使うこともある。

匿名社会は、人間関係が希薄であり、孤立化している。子ども達同士の人と人との結びつきがすごく弱くなっている。これは、地域社会に壊滅的な打撃があると思う。他の国では、現実の人間関係の方が楽しいし、教会やクラブチームなど、学校以外の居場所がある。日本でも、地域や地方を愛して、人との繋がりをもち、そこにお金が回っていくような仕組み、地域創生をしていく必要がある。若い人達がわって集まって、パソコンなんかやっているのが馬鹿馬鹿しい、こつちで何かみんなでやっている方がよほど楽しいようになっていくような盛岡にしかできない地域活性化をしていかなければいけない。また、障害のある人を全て抱え込んでいく、インクルージョンという考え方も必要である。現実社会にうまく適応できなかった人は、適応できない自分を責めると辛いから他罰的になり、原因を社会や経済や人が悪いと批判する。ネットの中だけで、己の主張ばかり言う。それにネットの中の人と同調する。その中心がいわゆるひきこもりのネット依存の人だったりする。しかし、その人達を排除せずに、インクルージョンしなければいけない。

ネット依存になる背景は、日本独特の特異な体質がある。希薄な人間関係、現実社会への回避、責任性を問われない自由な社会、低コスト。規制の無い社会である。規制の無い社会は、ネット社会

ネット依存への対応

- ・前提「ネットゲームは依存性の強いゲームである」という認識を社会・本人・家族・学校が持つ
- ・環境整備は行わないこと。
- ・18歳までは自宅でインターネットが接続できないようにする。（無線ランは家庭では使わない）
- ・大学生もデスク型は使わず、ノート型パソコンにする。なるべく、インターネット（情報処理）などの専門の勉強する以外は旧型、低性能のものを買ひ与える。
- ・接続回線も大容量の情報を素早く送れる光ケーブル等は契約せず、ADSLなどで充分である。
- ・パソコン2台目の外付けのハードディスクなどの附属物は買わない。

のトラブルを恐れている、何でも言い合える友達が少ない、現実社会の仕事や立場に不満がある、などの背景があり、逆にネット社会での友人や仲間がどんどん増えていき意気投合し、社会的評価が高くなっていくことで、ネットの関係は現実の人間関係より大切となっていく。現実社会とネット社会の関係の不等号の向きを逆にすることができればネット依存から抜けられる。

また、子どものネットの環境を便利なもの、高性能なものに変えることはせず、家族での会話を増やし、現実社会の人間関係を大切にしていける必要がある。

牟田武生理事長のプログラム等ご案内

① カウンセリング

横浜では土、日を中心に行っております。要予約、電話またはメールでお問い合わせください。

1時間 15,000円（会員10,000円）、1時間半 18,000円（会員13,000円）。

富山では月1回、宇奈月自立塾（宇奈月温泉）で行っております。料金は横浜と同じです。

また、全国各地で行われる講演や研修の際に不定期に行っております。

メール相談は会員のみ。原則無料ですが、ご寄付お願いいたします。

詳しくはお問い合わせください。

② 講演

教育委員会・児童民生委員・親の会・私立学校連合会・PTA・福祉関係等、様々なところで研修・講演も行っております。また、マスコミ関係の研修・番組企画・企画相談等もやっております。研修会の企画立案、コーディネートもご相談ください。（有料）

③ 留学&海外遊学・就労の会

価値観を変える海外旅行の会（自分探しの旅、認知行動療法の応用）

原則として、毎月第1日曜日午前10時～12時、横浜事務所で費用1回3,000円（平成27年4月より）。

①文化交流は価値観を変えるか ②具体的に留学や遊学とは ③海外で自立して働くには
全て、要予約です。予約は横浜事務所に電話でご連絡下さい。

勉強会は「講義」「情報交流会」「どう対応したら良いか」の構成で行います。

※参加希望者がそろえば、海外視察・遊学旅行も計画します。

予定としては、タイ、マレーシア、カナダ、韓国が候補に上がっています。

今年、2月にはタイバンコクに行きました。参加した若者はバンコクの寮生の盲学校も表敬訪問等をし、よい社会勉強になったと言ってくれました。



④ ネット依存からの克服の会

原則として、毎月第1日曜日午前10時～12時、横浜事務所で費用1回3,000円。

①ネット依存とは何か ②ネットゲームに陥る心理 ③脱出するにはどうするか
全て、要予約です。予約は横浜事務所に電話でご連絡下さい。

勉強会は「講義」「情報交流会」「どう対応したら良いか」の構成で行います。

⑤ 宇奈月温泉で

カウンセリングやアウトリーチの他に、当事者・若者短期合宿を行います。

詳しくは宇奈月自立塾にお尋ねください。

ゲストルーム等あり、宿泊も可能です。（会員割引あり）



会費納入のお知らせ

NPO 法人教育研究所は、皆さまの会費を運営資金の一部に利用させていただいています。内訳は会員通信費 40%、寄付 60%です。年会費は1口 5,000 円ですが、何口でも構いません。そして、年会費は会費をお支払いいただいた日から1年間有効です。継続を希望される方は、有効期限が切れる前に継続の会費を納めていただけるようお願いします。

横浜銀行 上永谷支店 (323) 普通 1442822

名義 特定非営利活動法人教育研究所 理事長 牟田武生

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人 教育研究所

※ 今年度から入金確認後、会員証を発行致します。

編集後記

新しいセフティネットとして、ひきこもりも支援対象者になる「生活困窮者自立支援法」と成立するであろう「青少年雇用促進法」が成立する。

そろそろ、荷降ろしの時期である。私も2年1が月で70歳になる。

ひきこもりは長期化と高齢化が進み、かかわる時間も長期間になっている。そのために、果たして最後まで責任を持ってかかわれるか、自信がなくなってきた。

若いスタッフも育ちつつあるから、そろそろ、新規の方は年内で終わりにしようと思っている。自分では頭がモウロクしていないと思っているが、やはり、休みなしで海外も含め働くのは疲れる、本来ならばプライベートで海外に行き、書き物等して、のんびり過ごすことの方が社会に迷惑ではないかと思っている、今日この頃である。(武)

「文藝春秋」5月号に、神戸少年A「家裁決定」全文公表が出された、何度も読み返しても、大自然(社会・地域・隣近所・学校教育)が機能しなくなった、盆栽の中の子育ての難しさを痛感した。

私もその一人だが、評論家や教育者の意見や評論は、虚しく、表層的に思わざるを得なかった。

最大の環境破壊は教育システムにある。(武)

旧若者自立塾の庭にある巨木桜は今、美しく黒部川の川面に枝を伸ばし、咲き誇っている。季節は誰も裏切らない。春らんまんである、野生の猿達も嬉しそうである。北陸新幹線開通で湧く、北陸地方、今大きく変わろうとしている。我々、宇奈月自立塾も地方の町興しに参画し、新しい日本づくりに貢献したいと思っている(光)